

第2回

岐阜市幼児教育推進プラン検討委員会

第1回会議のまとめ等

令和元年10月4日

幼 児 教 育 課

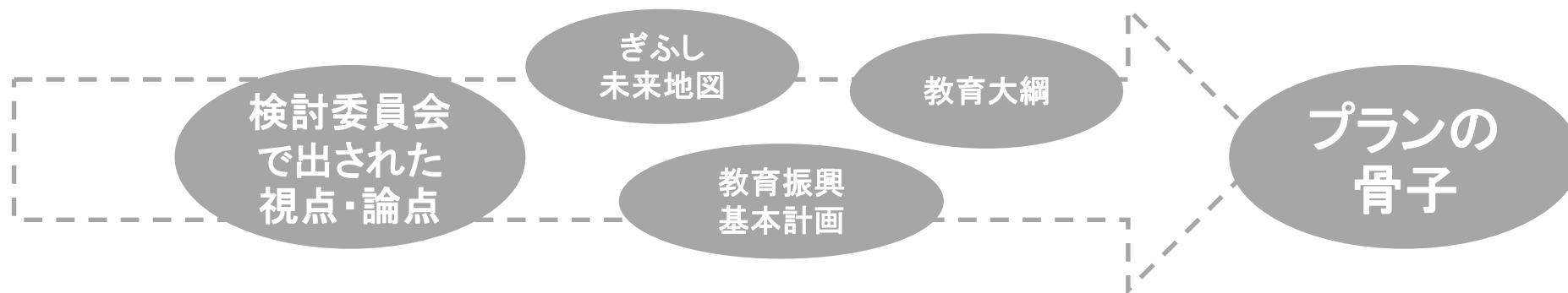
# 目次

---

	○骨子作成の考え方	・・・3
第1回会議の まとめ	○第1回会議で出された視点・論点①～⑩	・・・4～13
	○議論のための大まかな整理	・・・14
	○協議いただきたい事項の全体イメージ	・・・15
	○個別論点	・・・16
	○策定・公表に向けたスケジュール	・・・17
	○幼保小接続協議会の概要	・・・18
参 考	○協議会で出された意見の抜粋	・・・19
	○協議会における状況の把握・共有	・・・20

# 骨子作成の考え方

○ 幼児教育課におけるこれまでの方向性と、検討委員会で出された視点・論点や、他理念・計画等に含まれる関係要素を組み合わせ、今回の骨子(たたき台)を作成した。



# 第1回会議で出された視点・論点①

## ○ 世界情勢・社会環境について

### 前提

### 方向性・課題

#### 幼児教育の 役割

・これからの子どもたちが生きる時代は、非常に大きな挑戦の時代となる。

・大人にできることは、子どもたちに、変化を前向きに楽しむことのできるマインドと、変化に挑む武器となる力を育てていくこと。

#### SDGs

・世界には解決したいさまざまな課題が山積している。

・これからの子どもたちは、価値観や文化や言語が異なる多能な人たちと協働して、世界的な課題に取り組んでいかなければならない。

# 第1回会議で出された視点・論点②

## ○ 10の姿と遊びの中の学びについて

### 前提

### 10の姿

### 学びに向かう力

・非認知的スキルとして、「好奇心」、「協調性」、「がんばる力」、「自己抑制」、「自己主張」の5つを掲げており、これらを幼児期に育てていくことが重要としている。

### 方向性・課題

・10の姿をもとに教職員同士がもっと話し合いをしてもらいたい。そうすることで、子ども一人ひとりに応じた良さや課題が見えてくる。  
・保護者や地域の方にも、これが大事だということを発信していかないと連携は成功しない。どのように発信するかも含めて、幼小の先生が事実に基づいて語り合う必要がある。

・園での経験では、遊び込むことが大切。その子らしく、自由に主体性を発揮して夢中になるような遊びのこと。

→ 家庭において、親が子どもの意欲を尊重する態度を取ることが「がんばる力」などの学びに向かう力を育てることが分かっている。

# 第1回会議で出された視点・論点③

## ○ 遊び込みについて

### 前提

### 方向性・課題

#### 遊びの中の 学び

・幼児期における遊びの中の学びを明確に出して、それを小学校へ繋げていくことと、遊び切る、遊びこむ子どもを育てるための保育者養成が必要だ。

#### 子どもの 権利

・子どもの権利条約が、国際連合で採択されてから30周年、日本が批准して25周年、岐阜市でも2006年に岐阜市子どもの権利に関する条例が制定されている。

・遊び込む経験は、未来のために必要だというだけでなく、それ以上に子どもの今を尊重するという視点が必要。子どもの権利を保障するものだという考え方。

# 第1回会議で出された視点・論点④

## ○ 幼小のつながり(縦の視点)について

### 前提

### 方向性・課題

#### 縦の視点

・要領・指針の改訂において、小学校以上への接続の強化が謳われている。

・幼児教育の成果を、しっかりと小学校以上に引き継いでいくことが大切。

#### 乳児期から

・保育所保育指針で乳児の3つの自立という視点が明確に示されている。それが5領域に繋がり、10の姿に繋がり、児童期の3つの資質・能力に繋がっていくという連続性がある。

・それらを活かしながら、子どもたちの育ちを支えていく必要がある。

#### 願い

・幼児のきらきらした目を小・中・高、更には大学へとつなげていくことが大事。

#### 長い目で

・接続期だけの幼小連携ではなく、0歳から小学校6年生までの学びの充実のための幼小連携という視点が必要だ。

・育てたい子どもの姿を話し合っ、それぞれがどのような保育や授業が必要かを考えてもらえると良い。

#### 避けたいこと

・子どもたちが小学校へスムーズに上がるために、幼児期に小学校のように座って先生の話を聞き、平仮名を書けるようになることが接続だとはなってほしくない。  
・幼児期にしかできない経験をすることが大切だ。

・小学校への準備としてやるのではなく、10の姿を大切にしながら、子どもたちにどのような幼児教育が必要なのかをそれぞれが理解すれば、うまく繋がっていくのではないか。  
・幼保の先生が交流する場があれば、更にうまく接続ができるのではないか。

# 第1回会議で出された視点・論点⑤

## ○ その他幼小のつながり(縦の視点)に関わって

### 前提

### 方向性・課題

#### 言葉

・交流や連携、接続という言葉が同じように使われている。



・主体が異なっていて、交流は子どもが主体、連携は教師、接続は学びや育ちのカリキュラムと捉えている。

#### 子ども理解

・小学校の先生に幼児の姿を見てもらうことも重要だ。子ども理解ができていれば、スタートカリキュラムは必要ないと言われる方もいる。

#### 相互理解

・幼が小に合わせるとか、小が幼に合わせるとか、どちらかがどちらかに合わせるということではない。



・幼保側は小学校教育を理解し、小学校側は幼保を理解し、お互いに学び合って接続の道筋を考えていけるとよいのではないか。

#### 小学校側への配慮

・幼小連携が必要だと訴えても、多忙なため難しい部分もある。まずは、自分の目の前にいる子どもをしっかりと見てもらうことが大事だ。



・どのように小学校側を察してやっていくか。もちろんお願いすることもあるが、幼保側がアプローチしていくことが大切ではないか。



# 第1回会議で出された視点・論点⑥

## ○ 幼小のつながり(横の視点)について

### 前提

### 方向性・課題

#### 必要性

・10園以上の園から小学校に入学する現状。子どもなので、友達関係はどんどん出来上がっていくと思う。小1プロブレムという言葉もあるが、園の横のつながりがすごく大事だ。

・幼児教育施設同士の横のつながりが子どもに良い影響を与えていくとよい。

#### 10の姿

・指針・要領において、幼稚園、保育所、認定こども園の幼児教育に関する記載が共通化されている。どの園に子どもが通ったとしても、共通に一定の内容・水準以上の幼児教育を受けられるようにという願いが込められている。

・共通言語となる10の姿をいかに活用していくかが一つのポイントとなる。

# 第1回会議で出された視点・論点⑦

## ○ 家庭の姿・保護者の様子について

### 前提

### 方向性・課題

#### 子育てに 向き合う意識

・子育ての楽しさや自信などの前向きな気持ちは全国調査よりもやや高く、一方で、不安や負担感などはやや低く、全体的にポジティブな傾向がある。

・不安や負担感、特にそれらを強く感じやすい親をどのように見つけ、どのように支えていくかということも家庭教育の応援をするに当たっては考えていくべき課題だ。

#### 手探りの 子育て

・自分の子どもが生まれるまでに赤ちゃんに接したことがある乳幼児の保護者は約半数。少子化の中で、子育ての知恵やスキルを身につけないまま親になり、手探りで子育てせざるを得ない現代の親の姿が浮かび上がる。

#### 就労状況

・働く母親が増え、低年齢からの保育園などの利用率が急激に増加する傾向にある。

・育児と仕事の両立に奮闘する母親が増えている中、父親の育児参加をいかに増やしていくか。  
・低年齢からの保育の利用率が高まっていることを考えると、乳児保育の充実も必要。

# 第1回会議で出された視点・論点⑧

## ○ 家庭教育の応援に際して

### 前提

### 方向性・課題

#### 自己肯定感

・まずは、父親や母親が、自分を肯定するという意識を持って子育てを楽しんでもらえると、子どもの自己肯定感にもつながっていく。

#### 共に育つ

・幼児ではなく、乳幼児期にどうやって子どもが育ち、親と一緒に育っていけるかが大切。  
・親は、実は親1年生、2年生と成長していく。子どもと親と一緒に育ち合えることが望ましい。

#### 小学校入学を前に

・年長児の約9割は小学校入学を楽しみにしている。  
・子どもの小学校入学が近づくにつれて増えるのは、登下校の安全や新しい生活への移行、授業についていけるかといった心配が増える。

→  
・親の不安は子どもに伝わる。家庭への情報発信などを通じて親の不安を軽減することも、子どもを支えるために大切なこと。

# 第1回会議で出された視点・論点⑨

## ○ 家庭教育の応援に際して

### 前提

### 方向性・課題

#### 子どもの生活と園

- ・幼稚園児、保育園児ともに、1日の中で園で過ごす時間が長くなっている。子どもの生活の中で、園の存在感が大きくなっている。
- ・園から帰ってきて地域の友達と遊ぶことが減っている。
- ・子育てやしつけの情報源において、保育園児の母親では1位、幼稚園児の母親では2位が、園の先生という結果。

#### 読み聞かせ

- ・約3割の幼児の家庭がほとんど毎日読み聞かせをしているという結果で、週3日以上の比率を全国調査と比較すると、特に保育園児の家庭において全国調査よりも約10ポイント高いという結果。

- ・子ども集団の中で育つ経験を、園が意図的に仕掛けていく必要がある。
- ・家庭における情報発信においても、園の存在感が高まっている。(家庭教育の応援は、情報発信に関する支援という位置づけもある)
- ・ICTなどを活用して、忙しい母親でも、園に来る機会が少ない父親でも、園での子どもの様子や園の保育の考え方がわかるような情報発信の在り方を考える。

# 第1回会議で出された視点・論点⑩

## ○ その他

### 前提

### 方向性・課題

幼児期に  
育みたいこと

・教師には、子どもの興味関心を引き出すための能力が求められる。  
・話を聞く態度というものも重要で、聞かせるための魔法の言葉と両輪で、幼児期に育めると良い。



・絵本を活用するなどしたスタートアップ時のカリキュラムの工夫が必要ではないか。

運動遊び

・怪我が怖いために、運動遊びに関して、群れて遊ぶということが意外にされていない。



・集団生活を学ぶために、群れて遊ぶことの重要性は大きい。一方で、怪我のリスクもある。(大きなリスクについて学ぶ機会が失われないために、コントロールされたリスクの中で、群れて遊ぶことの大切さを広く情報発信する必要があるのではないか。)

発達に  
関する不安

・幼児支援教室を利用していた児童の保護者から、入学直後の4、5月に相談を受けることが増えている。

外国籍の  
子ども

・外国籍の子どもが小学校に入って初めて集団生活を行っていたり、言葉や文化の違いもあって学校でなかなか適応しにくかったりということを目の当たりにした。



・子どもたちに、人への優しさや寛容さを育てていきたい。

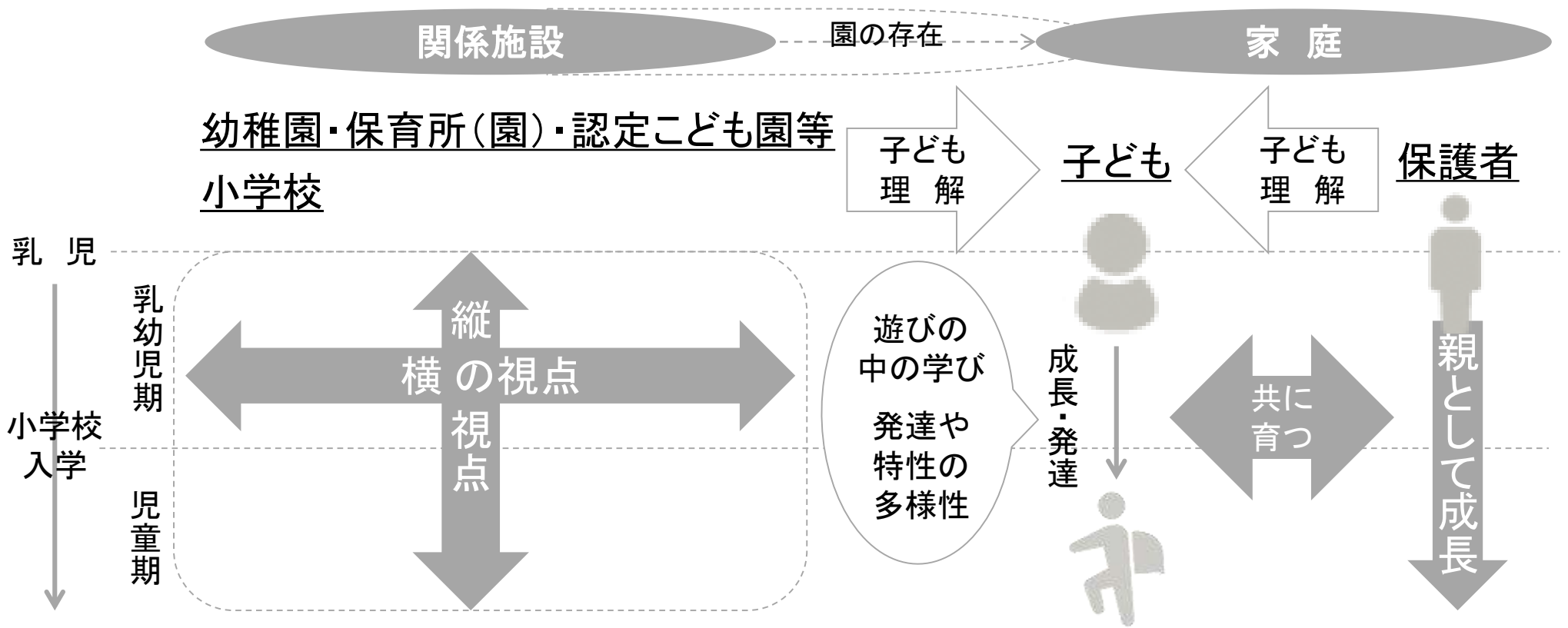
コミュニティ・  
スクール

・泣きながら小学校に通っている子どもに寄り添って支えてくださった地域の方がいた。



・コミュニティスクールの様々な立場の方に、子どもや保護者を支えてくださる方として活躍していただきたい。

# 議論のための大まかな整理



## 幼小の接続・連携

## 家庭教育の応援

接続: カリキュラム等  
連携: 園・学校の先生同士  
(子ども同士の交流を含む)

具体的な関わり

子どもの姿を通じた  
話し合い・相互理解

要領・指針等(3つの自立~10の姿等)

## 実践研究の推進

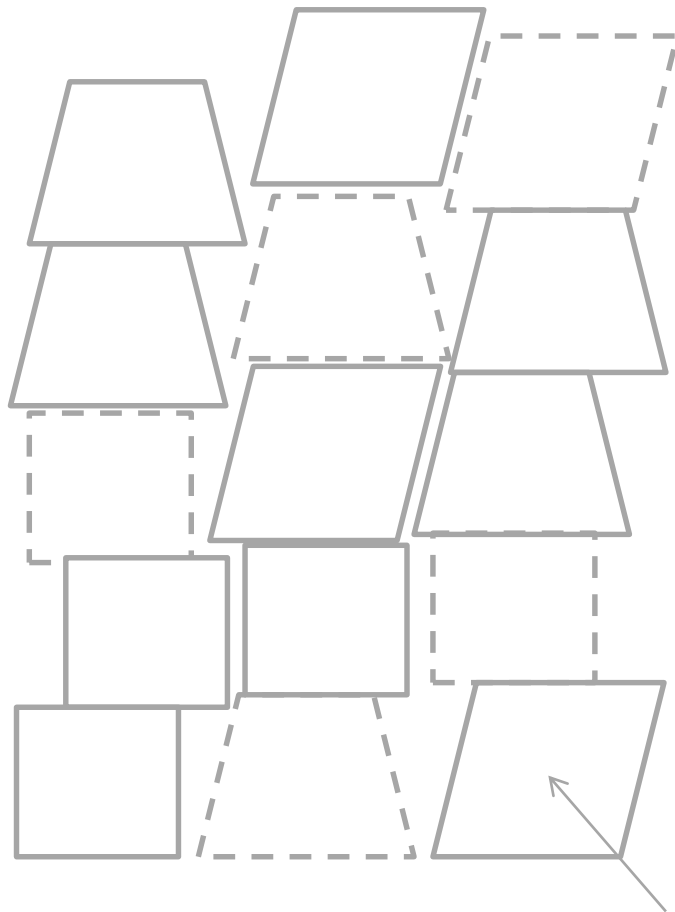
具体的な関わり

親育ち支援  
(自己肯定感・子ども理解)

# 協議いただきたい事項の全体イメージ

○ 今回・次回の会議の協議を通じて、パブリックコメントに諮るための素案を作成したいと考えています。

## 骨子(たたき台)



個々のスライド

今回・次回の協議

- ・構成
- ・全体の体裁
- ・見せ方
- ・見落とした視点
- ・必要な要素
- ・書きぶり
- ・etc

## 素案


# 個別論点

○ 全体イメージの他、下記の個別論点について協議をお願いいたします。

大切に  
したいこと

たたき台では、大切にしたい3つのことを掲げています。  
プランの趣旨を伝える重要な文言となりますので、  
内容面や言葉の選び方などの表現について、協議をお願いします。

大見出し  
(スローガン)

オール岐阜での推進を掲げ、  
幼児教育を大切にすまちとして発展していくことを願いとしています。  
プランにおいて最も大きな見出しとなりますので、ご意見・感想をお聴かせください。

周知・普及の  
方策

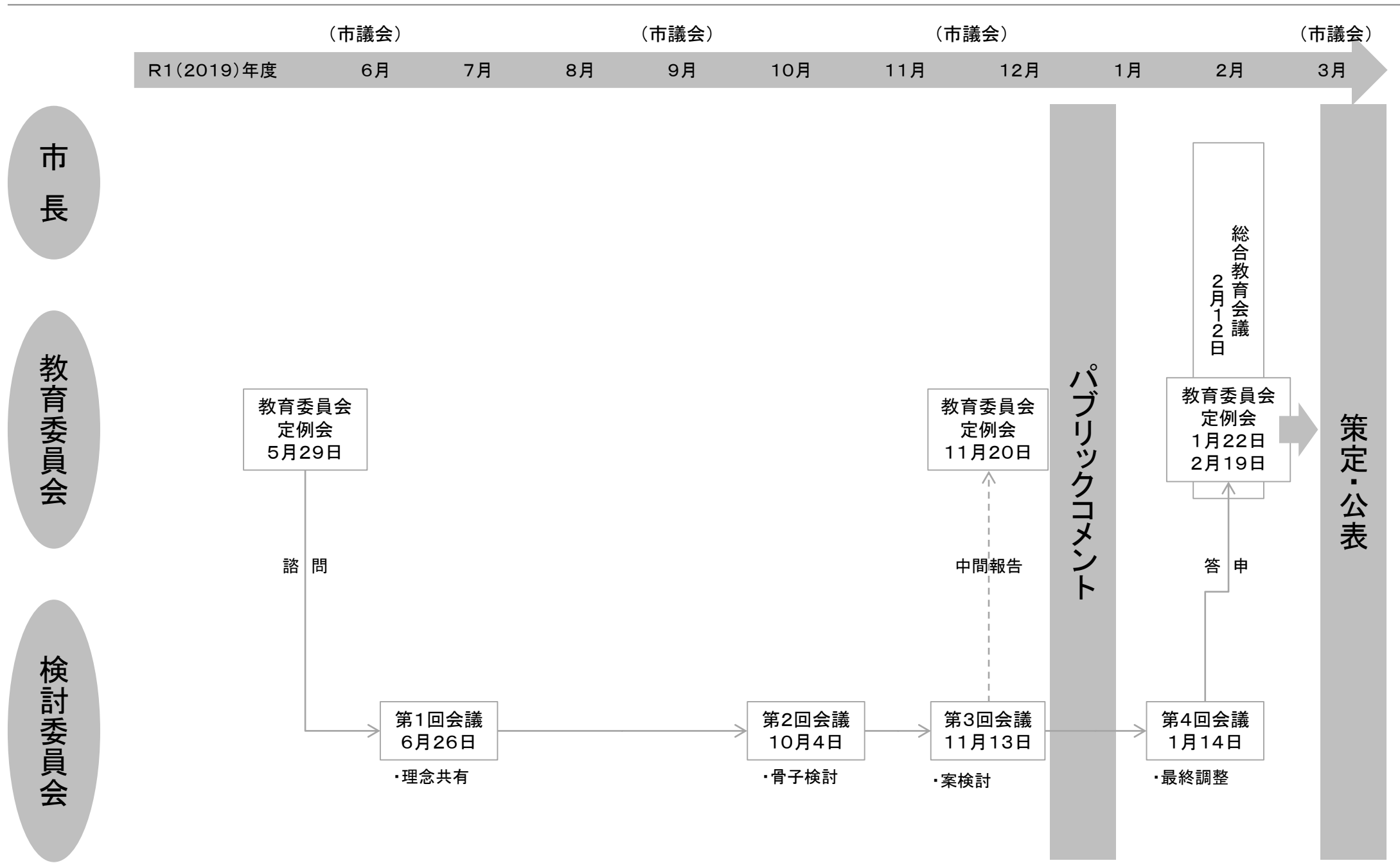
オール岐阜での推進を掲げておりますので、  
幅広い方に認知・理解いただけるプランの在り方が望ましいと考えています。  
特にこういった方に読んでほしいという願いや、具体的なアイデア等をお聴かせください。



今回のご意見などを受けまして、第3回の会議に向けて、プランの素案を作成いたします。



# 策定・公表に向けたスケジュール



- 幼児教育課が事務局となり、令和元年度(4月)から要綱に基づき設置した。
- 幼児期の子どもの学びを充実させるために、市内の幼児教育関係者が集い意見を交換するとともに、課題を共有し、解決に向けた行動を起こすための推進体であることを目指すもの。

■委員名簿

団体・役職	委員名	※敬称略
岐阜市私立幼稚園連合会・会長	加 納 顯	
岐阜市私立保育園・認定こども園連合会・会長	西 垣 安 久	
岐阜市小学校長会・小学校長	河 井 洋 子	
子ども未来部 子ども保育課	田 中 秀 和	
子ども未来部 子ども保育課・保育所長	山 階 泰 子	
教育委員会 学校指導課	神 山 留美子	
教育委員会 幼児教育課・課長	久保田 尚 志	※会長
岐阜市立幼稚園長会・幼稚園長	辻 道 代	※副会長

- 7月16日に開催された第1回会議において、検討委員会における議論を紹介。
- 子どもの育ちに関することや10の姿の重要性について下記の意見が出された。

### 課題意識

### 改善の 方向性

#### 子どもの 育ち

- ・近年、子ども同士の言葉による伝え合いや、自己調整能力が弱くなっていると感じる。
- ・大人との会話はできても、子ども同士で自分から進んで話し合う、互いの意思を汲んで我慢するといった子ども同士の調整に弱さを感じる。

- ・家庭でのゲーム等の遊びが増え、外遊びが減っている。⇒園での遊びが重要。
- ・大人の仲介や関わり方も重要。⇒子ども同士の対話を大切にしたり関わりができていないか。
- ・子ども達が遊び込む中での指導のチャンス、子どもたちに経験をさせていくことの重要性を訴えていかなければならない。

#### 10の姿

- ・10の姿は、幼児期を過ぎても将来に向けて繋がっていくものだから、小学校とも共有していく必要がある。
- ・大切な力で、家庭とも共有できるとよい。

- ・小学校の教師は、10の姿についてなんとなく知っているが、目の前の子どものことに精いっぱい詳しくは知らないのではないのか。⇒更なる周知が必要。

○ 協議会は、プラン策定後においても継続するため、協議会の場において、プランに基づく施策の状況を把握・共有し、引き続き、オール岐阜での推進を図ることとする。

